

1. 気象概況（中野市長丘地区気象ロボット観測データによる）

月間	旬別	上旬		中旬		下旬		月間		特記・コメント
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
10月	平均気温（℃）	15.0	17.4	13.9	13.5	8.6	11.1	12.4	14.0	月間平年比-1.6℃（低）
10月	降水量（mm）	25.5	19.7	6.5	54.6	1.5	45.3	33.5	119.6	月間平年比28%（極少）
10月	日照量（h）	29.2	52.2	53.3	48.0	63.0	55.2	145.5	155.4	月間平年比94%（並）

2022 10月気象ポイント

- ◆ 気温：最高気温28.7℃（10/2） 最低気温-1.9℃（10/26） 氷点下観測3日（10/26.27.31）
- ◆ 降水量：月間平年比28%（極少） 10mm以上観測 14.5mm（10/7）
- ◆ 日照量：月間平年比94%（並）
- ◆ 地温20cm：4月中旬～9月下旬まで高く経過。 10月上旬平年比±0℃ 中旬平年比+1℃ 下旬平年比-0.6℃

2. 生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

- ① 出荷量（昨対）：プラム125%、もも130%、和梨（南水）262%、サクランボ96%
秋映中心に胴サビ多い傾向。園地により、スイート、ゴールド、ふじにも散見。
- ② 果実肥大（縦径）：ふじ 前年比113%、平年比94% ふじは、ツル割れが少ない傾向。
秋映玉流れ 32 > 28 > 36 > 24 > 40
- ③ 生産基盤（推定）：ぶどう346ha（昨対+3）・りんご150ha・もも83ha・プラム38ha・和梨12ha・桜桃7ha・柿6ha・西洋梨5ha
- ④ 雪害：長丘地区山手、柳沢、田上、岩井地区のりんご・もも等で枝折れ散見。ぶどう棚倒壊・損傷等約50件あり。
- ⑤ 獣害：日野、長丘、科野、倭地区中心に、猪・鹿による果樹園地への被害が多発。（猪：園内、土手を荒らされる。鹿：りんご等の主幹表皮・芽を食害）
- ⑥ 凍害：冬季の低温により、モモなどで樹体枯死、枝単位の枯れ込みが散見される。また、落花後の樹勢衰弱も散見された。
- ⑦ 収穫開始：りんご：秋映9/27、スイート10/7、ゴールド10/15、百年ふじ11/1～、サンふじ11/10～
着色・成熟が遅れており、昨年よりも3～7日程度遅れて収穫が始まる見込み。
- ⑧ 露地ぶどう収穫解禁：パープル・巨峰8/28、種なし巨峰9/4、ピオーネ9/14、シャイン9/19、ルージュ9/25
- ⑨ ハウス
 - ◆ ぶどう：シャインピーク8月上旬（昨年より遅い）。6/24の高温により、主に水まわり前の房に日焼け発生し、園地により減収あり。着色上昇早い、糖度上昇が鈍い状況であった。
- ⑩ 防除ポイント
 - ◆ 黒とう病：早期梅雨明け及び落花20日後防除強化済により房被害は昨年より大幅に少ない。8月に副梢葉に感染確認。
 - ◆ 晩腐病：巨峰等で8月中旬から一部被害確認。7月中旬頃感染と推定。発生比率は昨年より低い。
 - ◆ 黒星病：6月中旬、一部園地で葉・果実病斑が散見された。8月下旬頃から、一部園地で秋季の葉病斑が散見される。
 - ◆ 褐斑病：8月下旬から、りんご園にて葉病斑が散見される。（基っ葉中心）
 - ◆ せん孔病：5月上旬頃～春型枝病斑を確認。6月上旬頃～葉病斑を確認。晩生種以降、果実病斑が確認されているが、少発生。
 - ◆ スモモヒメシクイ：6/29第一世代増加。7/下旬～8/初旬 第二世代増加。りんご、プラムで園地により被害発生。
 - ◆ カメムシ類：5月中旬頃から、カメムシによる果実・葉への被害が散見される。
 - ◆ ケムシ類（マイマイガ）：5月中旬頃から、山際の園地中心にマイマイガの発生が散見される。
 - ◆ ハダニ類：6月下旬から連日高温が続き、ハダニ類が散見されている。8月上旬、県ハダニ注意報発令。
 - ◆ コガネムシ類：6月下旬から山間部を中心に被害確認。
 - ◆ キンモンホソガ：8月中旬頃からりんご園でキンモンホソガの発生が散見された。